



Ephphatha!

日本基督教団エパタ教会 季報

No.20
春の号

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 25 ☎ 03-3260-5222 ✉ ephphatha.church.tyo@gmail.com

2017年4月9日発行

“休む”ことの意味を考える — あかしの生活を続けていく上で —

エパタ教会牧師 亀岡 顕

◎なまけることは幸せか？

ドイツの二人の医師による「なまけることの幸せ」(2002年、集英社)という私にピッタリの本があります。陸上競技の選手だった二人は健康な体で長生きするために必要なことは厳しいトレーニングで体を鍛えることではなく、どんな状況に置かれても自然体であり続ける能力である、と多くの人たちが健康によいと思っている常識を覆して“のんびり、なまける”ことはいいことだと言い捲っています。

私は「健康のために何もしないことこそがはつらつとした体を保つ」という彼らの主張をあかしの生活に適用できないか考えてみました。ただし、「健康のために」を「自分の都合のために」、「はつらつとした体を保つ」を「神への信頼に基づいて他者とのよい関係を築いていく」と置き換えた上です。そうすると、「利己的に生きるために何もしない」ことから「神との交わり・他者との共生」という信仰者にとって最も大切な生き方が始まっていくことがはっきりしてきます。

◎何を“なまける”のか？

ユダヤ教は天地創造のわざを終えた神が休んだ7日目を自分のためのわざ(仕事)を休んで神と向き合う「安息日」として大切にしています。キリスト教徒はイエスの復活日を記念して週の初めの日を霊的な安息日として礼拝の日としました。私たちは「何が神の御心であるかをわきまえるようになる」(ローマ12:2)のために日曜礼拝をまもっています。

私たちが“なまけていい”というよりは是非とも“なまけなければならない”のは神と隣人との交わりをダメにしてしまう自己中心の生き方です。自分さえよければという身勝手な態度は結局自分自身をも疲れさせます。私はイエスの「休ませてあげよう」との招き(マタイ11:28)にはこの自己中心から自由にすることも含ま

れていると思っています。

◎サバティカル制度の必要性

受洗者を生み出して教勢を拡張していく従来型の伝道は今大きな壁にぶつかっています。そのことからくる教師の疲弊の問題に数年前から取り組んでいる北支区は教師の心身のリフレッシュを目的とする「サバティカル(安息年)制度」を導入する議案を2017支区総会で審議することになっています。

私はこの議案に賛成です。しかしそれと同時に、伝道のあり方について根本的に見直していく必要があると思っています。今まで教会がやってきた伝道とは何だったのか、結局は教会を存続させるという目的のために教師や信徒はひたすら務めるよう仕向けられてきたのではないか、という指摘にきちんと向き合うべき時が来ているのではないのでしょうか。そして教会が生き残るための伝道を“なまけ(やめ)て”今日の社会において“神が善しとし喜ぶ”(ローマ12:2) わざに力を入れていくことこそ教会に求められている宣教だと思っています。

◎イエスの後をのんびり行こう

救いの計画を自ら進める神のわざに今も生きて働く主イエスに励まされて参加させられているのが信徒・教師です。この恵みの上をしっかり立って各々の立場や状況の中で“のんびり(余計なことに気を使うことなく心身のどこかに落ち着いて)”与えられた課題に取り組んでいくのが私たちのあかしの生活です。

“自己中心の生き方をなまける“ことこそが神と人にと喜ばれる”幸せなあかしの生活“につながるっていくのだ、と私は言い捲っていくつもりです。

エパタ教会に導かれるまで

相田典子

母がよく言っていた「何の功しもないのに…」という言葉が近年改めて甦ります。

単に長い教会生活で何の功しもなく今日まで恵みの日々を過ごさせて頂いた事を感謝をもって証しさせていただきます。

私は日本基督教団室蘭教会で受洗以来、このエパタ教会が五つ目の教会になります。

今迄、多くの善き師と友に出会い、導かれて今日に到りました。

特に四十年在籍した下石神井教会の初代牧師、小田島嘉久先生には生きた祈りを教えられ、今迄形式的に祈って、あまり切実にキリストを身近に感じなかった私はまさに力の泉を見出したのでした。「絶えず祈りなさい、事ごとに祈りなさい。」を実行した先生は信徒やその家族の名簿を作って毎晩祈られ、「ボロボロになって書き換えたのですよ」という奥様の話を伺いました。他教会員である娘の夫の名まで覚えて下さいました。

こうした日々した後、私は谷内爽牧

師が新しく開設された練馬二丁目伝道所に移りました。

ここは小さいながら喜びの礼拝を捧げる教会で和気藹々とそれは楽しく充実した教会生活でした。が、その二年後突如として牧師の急逝という試練に遭遇し、普通の主婦であった牧師夫人と私、それに信仰歴の長い姉妹の三人が今後の責任を負わされる羽目になりました。他に教会員もいましたが、皆、一、二年足らずの新しい人ばかりでした。

お金もなく人もいない、これはもう祈りしかありませんでした。私はこんなに切実に床に打ち伏して祈る経験は初めての事でした。

主はこの涙の祈りに応えて下さいました。

思いを超えた多くの先生方の支援と他教会員の祈りと献金…。何とか存続を、と新しく迎えた下里綾子牧師は苦難も悲しみも吹き飛ばす明るさで伝道所は再び喜びの礼拝を取り戻したのでした。ここで私は祈られる幸いを身に沁みて知りました。とりなしの祈りのいかに大切なこと

か、豊かでもない方々が長い間献金を捧げて下さり、奏楽に礼拝出席にと何と多くの方々の愛に励まされたことでしょう。今回、事情があって伝道所は十六年をもって閉鎖されましたが私達はこれを御心の時と覚えて四散しました。

しかし伝道所で養われた神の家族の気持ちは変わることなくお互いにも安否を気遣い合っております。

そして導かれたエパタ教会、亀岡牧師は伝道所危機の折に北支区長の激務の中をよくお説教にお出かけ下さり様々の相談に耳を傾けて下さいましたので迷いなくこの教会に寄せて頂きました。礼拝後の明るいエントランスでの和やかなおしゃべりに表徴されるように人数は少ないけれど温かく、私は心からの喜びをもって礼拝に連なっております。

只、もう高齢で何の御奉仕も出来ませんが小田島牧師に培われた陰での祈りの奉仕が全うされますようにと願いつつ、前に向かってスローでも走り続けたく思います。感謝…。

4～6月 エパタ教会集会・行事予定

- 4月13日(日) 受難週礼拝・聖餐式
- 4月16日(日) イースター礼拝・聖餐式、愛餐会
- 4月23日(日) 教会総会
- 4月30日(日) 南板橋伝道所との講壇交換
- 6月4日(日) 聖霊降臨日(ペンテコステ) 礼拝・聖餐式、愛餐会
- 6月11日(日) 15:00～ シネマ・エパタⅧ
上映作品:「ホーホケキョ となりの山田くん」

どうぞ、お越しく下さい。

